

好評の『信じても苦しい人へ』続編！



うめきから始まる信仰 信じても、まだちょっと苦しい人へ

中村 稷 著

弱さを抱えたままでいい——生きづらく苦しかった10代に日本を飛び出した著者が、欠けのある自分をそのまま受け入れてくれた存在をとおして出会った「神の愛」。苦しみや葛藤から解放されるのではなく、そのただなかで神と出会うことを語った「たましいの片道書簡集」。

四六判 208頁 定価1,870円(本体1,700円+税)
ISBN978-4-264-04480-2 C0016
いのちのことば社 卸コード 14105

中村 稷 (なかむら・じょう)

日本の社会になじめず、18歳のときにアメリカへ家出。ひとりの牧師に拾われて、アメリカでの生活が始まる。紆余曲折を経ながらも大学を卒業。助けられた恩師と同じ職に就きたいと、牧師になる決意を固める。2009年、米国のウェスレー神学大学院を卒業し、帰国。上野の森キリスト教会で宣教主事として奉仕。2014年から飯能の山キリスト教会を立ち上げ、教会カフェを始める。現在、地元の聖望学園で聖書を教えつつ、J.T.J 宣教神学校でキリスト教思想史哲学、クリスチャンライフ学院で霊性の神学を担当している。著書に、『信じても苦しい人へ』『366日ディボーション 弱さと闇を照らす光』（以上、いのちのことば社）がある。